

病に苦しむすべての患者さんに救いの手を差し伸べよ

あなたは、とある製薬メーカーの新人 MR です。

あなたのチームでは、半年前に承認された期待の新薬「A」で少しでも多くの患者さんを救いたいと考え、さまざまな情報を収集・分析しながらドクターとの効果的なコミュニケーションの内容を協議しています。

以下は、新薬「A」及びそれに関連する情報ですが、これらの情報を読み解きながら、処方数を増やして患者さんに貢献するためにどのようなコミュニケーションや行動を取るとよいかを考えてください。

(ヒント)

ターゲット施設/ドクターを考えたうえで、「どのような点を訴求すべきか」ということを起点に議論してみてください

<薬剤の情報>

新薬「A」は、小さな細菌によって引き起こされる発熱症状や乾性の咳症状を適応症として販売を始めた薬剤で、従来の抗生剤では効果の発現が見られなかった患者さんからは希望の薬剤として認識されている。一方、医療現場の医師からは効果効能の高さと費用面での使いやすさを両立している点が高く評価されており、全国の基幹病院をはじめ、各地域のクリニックでも採用が進み始めている。

用法・容量は、通常、成人の場合、1錠 200mg を1日4回投与するものとする。

<対象疾患の情報>

微小な細菌によって引き起こされる感染症の一種で、発熱や咳、全身の倦怠感、頭痛などの症状がみられる。咳は他の症状より少し遅れて始まることが多く、熱が下がった後も長期にわたって続くことが特徴。これらの症状は比較的軽度であったり、比較的長い潜伏期間後の進行が緩徐であることが多いため症状を自覚しにくいケースも散見されるが、適切な治療を受けないと、重症化することや無菌性髄膜炎、脳炎などの中枢神経系の症状、中耳炎などの合併症がみられることもある。

なお、本疾患と同様に軽度の発熱や咳を特徴とする全く別のウィルス性の感染症が複数あるため、検査を精密に行いその原因物質を正しく特定/評価する必要がある。

ちなみに、本症状の発症率は0.027%(100人に0.027人)という統計があり、且つ難病指定もされている。治療に関しては、これまで完治が期待できる薬剤はなかったが、ようやくいくつかのアプローチでの開発が進みつつある状況。そのような中で承認された新薬「A」への期待はとて大きく上がっているが、できる限り早い時期に治療を開始し、重症化や合併症の併発を抑えることが重要となる。

<主要 3 施設の情報>

大学病院「X」

項目		状況	備考
病床数		300 床	今年度中に 500 床まで増床予定
医療圏内の人口		30 万人	
当該疾患担当の医師の人数		3 人	ベテラン：2 名、若手：1 名
当該疾患の患者数(累計)	外来	16 人	比較的高年齢層の患者が多い
	入院	0 人	
新薬「A」のこれまでの処方実績	検討	2 例	投与中の 1 例の経過を見ながら検討中
	投与中	1 例	
その他		増床計画に伴い担当医師の増員も予定されている	

国立病院「Y」

項目		状況	備考
病床数		500 床	
医療圏内の人口		45 万人	
当該疾患担当の医師の人数		5 人	ベテラン：1 名、若手：4 名
当該疾患の患者数(累計)	外来	28 人	さまざまな年齢層の患者が来院
	入院	2 人	他の疾患で入院中の患者における症状確認
新薬「A」のこれまでの処方実績	検討	4 例	診断結果が不明瞭なため慎重に検討中
	投与中	2 例	
その他		昨年、各診療科の検査機器を最新の設備に刷新済み	

基幹病院「Z」

項目		状況	備考
病床数		150 床	ここ数年、空きベッドがかなり増えている
医療圏内の人口		10 万人	
当該疾患担当の医師の人数		1 人	ベテラン：1 名
当該疾患の患者数(累計)	外来	10 人	圧倒的に若年層の患者が多い
	入院	0 人	
新薬「A」のこれまでの処方実績	検討	0 例	
	投与中	0 例	
その他		人口減少に伴い施設の統廃合の対象になっている	

<ドクターの代表的なコメント>

- ・それほど患者さんが多いわけではないから、この疾患のことを常に意識しているわけではないね
- ・患者さんによって症状が微妙に異なるから、どの薬剤を投与すべきかの判断が難しいんだよね...
- ・若い患者さんはインターネットで疾患情報を得て来院するケースがかなり増えてきているよ
- ・これまでの薬剤は完治が期待しにくかったけど、新薬「A」にはその期待が持てそう！
- ・症状を軽視して放置した軽症型の患者さんが悪化して駆け込んで来ることも多いかな
- ・以前、別の病院で処方された薬で症状が悪化したと言ってウチに来院した患者は、今はかなり改善したよ